

重症心身障害児(者)の慢性呼吸器感染症 に対するエリスロマイシン少量長期療法

狩峰里佳[†] 大森啓充¹⁾ 二宮優智 浜田祐希* 林俊吾⁴⁾
山本和志美 森近俊之⁵⁾ 西川正直 宮地隆史²⁾ 住元了³⁾

IRYO Vol. 73 No. 10 (442-447) 2019

要 旨

重症心身障害児(者)(以下、重症児)の医療において呼吸器感染症の医療的ケアは、最も重要な課題の一つである。ほとんどの重症児は摂食嚥下障害などから、呼吸器系(吸引性肺炎を含む)の疾患を合併している。一方、長期の14員環マクロライド系抗菌薬の投与は、びまん性汎気管支炎(DPB)、気管支拡張症および慢性気管支炎などの慢性下気道感染症に対する治療として選択されることが報告されている。今回の研究では、反復性下気道感染症にともなう15例の重症児におけるエリスロマイシン(EM)の少量長期投与についてレトロスペクティブに検討した。その結果、重症肺炎の罹患回数が減少する改善がみられた。将来的には、さらに重症児での適応症例や、呼吸器合併症を詳細に検討し、少量長期マクロライド療法の有効性を評価する必要があると考えられた。

キーワード 重症心身障害児(者)(重症児)、慢性下気道感染症、エリスロマイシン(EM)、少量長期マクロライド療法

緒 言

重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せもつ重症心身障害児(者)(以下、重症児)では、合併症のなかでも肺炎などの呼吸器系合併症が多くみられ、死亡原因の半数以上が呼吸器疾患によるとされている。また、人工呼吸管理など濃厚な医学的管理を必要とする著しく重度な超重症児が増加傾向にある。

そのため、重症児の医療的ケアにおいて、呼吸管理や慢性呼吸器感染症などの呼吸器系合併症への対応はきわめて重要である¹⁾。

临床上、有用なマクロライド系抗菌薬は14員環マクロライド系抗菌薬としてエリスロマイシン(EM)やクラリスロマイシン(CAM)、EMから誘導した15員環マクロライド系抗菌薬としてアジスロマイシン、16員環マクロライド系抗菌薬としてジョサマイ

国立病院機構柳井医療センター 薬剤科、1) 小児科、2) 脳神経内科、3) 外科、4) 国立病院機構関門医療センター 薬剤部、5) 国立病院機構東徳島医療センター 薬剤部、*現所属 国立病院機構岩国医療センター 薬剤部 †薬剤師
著者連絡先: 狩峰里佳 国立病院機構柳井医療センター 薬剤科 〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95

e-mail: karimine.rika.yd@mail.hosp.go.jp

(2019年2月22日受付, 2019年6月14日受理)

Small Quantity Long-term Therapy of Erythromycin for Chronic Respiratory Tract Infections in Patients with SMID (Severe Motor and Intellectual Disabilities)

Rika Karimine, Yusato Ninomiya, Toshimi Yamaki, Masanao Nishikawa, Hiromitsu Ohmori¹⁾, Takafumi Miyachi²⁾, Ryo Sumimoto³⁾, Shungo Hayashi⁴⁾, Toshiyuki Morichika⁵⁾ and Yuki Hamada⁶⁾, Department of Pharmacy, 1) Department of Pediatrics, 2) Department of Neurology, 3) Department of Surgery, NHO Yanai Medical Center, 4) NHO Kanmon Medical Center, 5) NHO Higashitokushima Medical Center, *NHO Iwakuni Medical Center

(Received Feb. 22, 2019, Accepted Jun. 14, 2019)

Key Words: severe motor and intellectual disabilities (SMID), recurrent respiratory tract infection, erythromycin (EM), long-term macrolide therapy